

地域ネットワークニュース

～平成26年4月の勉強会のお知らせ & 平成26年3月の勉強会報告～

第195回 地域ネットワーク勉強会

「発達障害者の就労とその支援について」

講師：茨城県発達障害者支援センター
大野真裕 氏(センター長／臨床心理士)

4月24日(木)
午前10時～正午
神栖市保健・福祉会館内
参加費無料

茨城県発達障害者支援センター(東茨城郡茨城町)は、県内にお住まいの発達障害のある方やそのご家族等からのご相談に応じ、また、専門的な発達検査等を行っています。相談内容は診断、治療、生活、就労に関することなど多岐に渡り、その65%を占めるのが、19歳以上の発達障害を抱える方やそのご家族からの相談です。特に就労については、職場での人間関係や与えられた仕事を上手にこなせないなどの悩みから、就職活動をしたいが自信がない、何から始めたらよいか分からないといった相談が多く、支援センターではその方々の特性にあつた就労ができるように、関係機関と連携して支援にあたっています。

今回の勉強会では“就労”を目指すために必要な適性・適応能力の考え方や本人の得意・不得意(苦手)の認識の重要性、企業(雇用先)に求められることなど、相談事例を踏まえて伝えて頂きます。保護者の皆様、特別支援教育コーディネーター、支援機関の職員の方々のご参加をお待ちしております。



お問い合わせ：神栖市社会福祉協議会 地域福祉推進センター 担当:三浦 電話 0299-93-0294



第194回 地域ネットワーク勉強会報告

平成26年3月26日開催

『子どもの‘味方’になる‘見方’』

<参加者41名>

講師：川越 勝 氏(臨床発達心理士・学校心理士)

神栖市子育てカウンセラー

栃木県・群馬県スクールカウンセラー

子どもの味方になる見方とは？

- ①先ずは子どもの現状を理解すること。一般常識だけで判断することなく、子どもの大変さ(困難さ)の背景を想像します。問題行動が生じた場合にはその背景にあるものを想像してみます。
- ②『責めない・問い詰めない・押し付けない』。これらの言動を数回すると関わりを拒否する子どもがいるので注意・配慮が必要です。しかし、「甘やかしていい」とは違うことに留意します。
- ③『一貫性』。子どもに伝えることは、その時々で大きく変わらないようにします。一貫性がないと子どもは迷ってしまいます。

★川越さんからメッセージ

「直接子どもと関わってみると、大変なことや楽しいことがあります。子どもたちの5年後・10年後の元気な姿をイメージしながら、今できることを無理しないで1つ1つ積み重ねてください。時々、頑張っている自分自身にご褒美をあげましょう。(^ - ^) V」